



	なし
--	----

食品団地	11月商況は、連休もあり、観光関連の商品の動きは良好であった。県外市況については昨年並みの動き。景気の回復も感じられない状況が続く、原材料の高騰、人件費増加など環境的に負担の増加ばかりが感じられる。
テントシート	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。
木製品素材生産	11月の出材は先月から横ばいの状況であり、例年と変わらない出材状況となっている。丸太価格についても、依然として製材品の動きが鈍く、全体的に横ばいで推移している状況であるが、一部(スギ4m24上)は先月より引き続き好調。今後の見通しは、現状が続くと思われ期待は薄い。
製紙(家庭紙)	紙製品全体で、先月に続き、販売金額・販売量・生産量は昨年同月比で上回った。特に、ティッシュペーパー、トイレットペーパー及び工業用雑種紙の動きが良い。
製紙(手すき和紙)	全体的に、昨年同月比でみると少しだが上回った状態が継続している。今後の需要回復を願いたい。人件費等上昇の影響で、売上が上がっても収益高が少ないので厳しい状況である。
刃物製造	売上は殆ど昨年と変わっていない。しかし、価格の改定で値上りしているものの売上額がほぼ同じということは、数量的には減少していることが考えられる。
機械団地	原材料等のコスト高に対応した価格転嫁や取引条件の改善は進んでいるものの、今年は例年に比べて受注が伸びず、売上が低迷しているとの声の一部がある。団地内の業況は業種や規模の違い等により、好不況のバラツキがある。
船舶製造	受注・売上ともに引き続き順調だが、全体的に人手不足感がある。人手不足の問題は、今月に限った問題ではなく、組合員ごとに事情は違うが、主に「退職者が出ても補充ができない」、「今後後継者をどうするか」などの悩みがあり、中小製造業の将来は厳しく感じる。
珊瑚装飾品製造	11月度の取引額は前年同月比59%と、先月に続き大幅な減少となった。
卸団地	値上げの効果により売上高は増えているが、収益状況としてはさほど改善されていない。10月は選挙があった関係で、外食系の動きが鈍く物足りない印象が残った。仕入品や電気代、ガソリン代などが値上りしているものの販売価格に十分転嫁できていない。
青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量96%・キロ単価131%、果実:数量96%・キロ単価124%。各組合員の買受高(仕入高)は、15~30%増加となっており、単価高の割には好調な売上と思われる。
生鮮魚介卸売	売上高の減少が止まらない。回復は難しいかと思われる。カツオはそろそろオフシーズンになっていくので、マグロ類・ブリに期待したい。
各種小売(土佐市)	なかなか人出が悪く、商店街も寂しい状況が続いている。
電気機械器具小売	11月度は全商品平均で前年比102.6%。補助金のおかげでエコキュートが前年比104%であった。白物家電は前年比101%、大画面テレビは前年比86%であった。

中古自動車小売	先月同様、高年式車の販売が増加している。軽自動車の割合が多く、相場も安定しており以前ほど仕入れが難しいことはないので売りやすい状況。消費者動向について、先月から来店数や問合せ件数も増えている。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の100.9%(229台増)、料金収入は前年の96.3%(269千円減)。帯屋町筋商店街に今年7月AIカメラを5箇所設置し、東洋電化中央公園等でのイベント開催時の通行量と性別・年齢といった属性の測定を始めた。22日(金)には「イルミネーションフェスタ2024」の点灯式が開催され、クリスマスムードをいち早く楽しんで頂いた。
商店街(四万十市)	一條大祭にあわせてスタンプラリーを開催した。商店街活性化協議会で県や市、各商店街との話し合い体制も強化した。
旅行業	組合クーポン前年同月対比63%、全旅クーポン合算前年同月対比101%であった。
IT事業	売上は前年比で20%増加し、2ヶ月連続で前年同月を上回る結果となっている。毎月の継続案件に加え、各部門でも安定した増加傾向が見られる状況だ。引き続き、年度末に向けた補助金活用や設備投資の需要拡大に期待したいと考えている。また、さらなる営業力の強化を図るとともに、最新技術や情報に関する勉強会を通じて、組合員全体のスキル向上に向けた取組みを継続していきたい。
クリーニング	夏物衣料の衣替え時期が温暖化の影響により11月にずれ込み、売上は増加している。しかし、全体的にはカジュアル化傾向が進み、家庭洗濯出来る衣料が増えてきているので、点数は減少している。汗抜きなど付加価値で単価アップ出来ているところは堅調。資材・人件費等の増加により、業況としては横ばい。クリーニング店の減少が続いており、地域によってはクリーニング店の無い「クリーニング難民」が発生している。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比79.5%となった。工量の少ない嶺北はじめ5地区で増加したものの、その他の地区が減少した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:108.4%、輸送回数:103.0%、実働率:51.8%。日本版ライドシェアは、許可をとった事業者の中、1社が稼働したことを聞いているが、その他新しいニュースはない。今年も1ヶ月となり、少しずつ業況は良くなりつつある。運転者の増加を願うのみである。

酒類製造	今月は減少に転じた。暖冬の影響もあり、日本酒の飲酒時期到来の遅れか。酒造り無形文化遺産登録!世界のコンテストにおける土佐酒の受賞ラッシュ!というビッグチャンスで、最需要期の年末年始に期待。
製材	木造住宅着工戸数は依然として低調で、売上高は減少傾向にある。
建具	仕事量は先月より少し増えたが、昨年と比較すると大分少ない。高齢の職人が多いため、退職された後、若い職人が入ってこない。
印刷	当月は売上微減、操業度若干低下。県外需要は好調を維持しているが県内需要が低下、総じて厳しい状況が継続している。原材料の値上げも来月1月から予定されており、益々状況悪化が懸念される。
生コンクリート製造	11月度の全組合員の出荷量は、対前年比106.8%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比95.1%で11月単月及び4月からの累計は、前月に引き続き若干増加傾向にある。地域的には、中央・県央協組が増加傾向であるが、中部・高幡と幡多地区が減少傾向にある。その他の地域はほぼ前年並みの出荷量で推移している。
コンクリート製品	対前年同月比99.3%。数ヶ月売上高の低迷が続いていたが、11月になって持ち直してきた。しかし、例年よりは少ない状況が続いている。
ガソリンスタンド	11月末の原油価格はサウジ原油調整金上昇したため補助金が支給されても仕切り価格は上昇した。補助金については11月末現在16.3円/Lになっているが、政府からの発表があり、12月と1月に5.1円ずつ縮小の予定で、この2ヶ月で10.2円の補助金縮小となり、残りの6.1円については未定だが徐々に減る見込みである。そのため、この2ヶ月で補助金の減額と仕切り価格の変動により12月・1月は大幅な値上げが予想される。
商店街(安芸市)	阪神タイガースの秋季キャンプでは、藤川球児新監督が就任されたばかりということもあり、県内外からたくさんの方が訪れた。先月に続き、通行量調査を実施。今月は、通常の平日及び日曜日の調査を行った。前回のイベント日の調査と比較しながら今後の活動に活かしたい。
旅館・ホテル	秋の行楽シーズンに向けてレジャー並びにビジネス需要共に堅調に推移しているが、昨年実績を割り込む見込み。12月以降の閑散期の入れ込みが弱く、国内インバウンド問わず集客が課題。忘新年会シーズンを控え宴会予約動向は堅調だが、人手不足の問題は依然解決できず、食材費・水道光熱費などの値上げが続く、売価転換も困難な現状である。
飲食店	当月の売上高は7ヶ月連続で前年同月を下回った。コロナ禍以前との売上比較は約8割~9割。集客は少なく、特に県の東、西部で減少している。前年同月に比べ更に物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。
一般土木建築工事	令和6年11月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比97.4%、前年同月比106.8%となっているが、前年同月累計比では95.1%と依然低調。そのうち共同販売事業に係る出荷量は累計135579.65m ³ で全体の36.41%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、来月1月契約分より値上げ実施に向けて動いているものの、具体的な動きがこの段階ではなく、不透明な状況にある。高知市の組合再編についての基礎となる各社のシェア割については決定した模様だが、組織編制・値上げ交渉等についてはこれからとなる。
一般貨物自動車運送	10月のコスト値上げ分の転嫁で燃料市場が乱れたことにより、11月の実質値下げは20銭程度だったにも関わらず、10月分の調整が入ったため1円程度の値下げとなった。物流業界にとっては好材料であるが、12月の市況も注視する必要がある。荷動きは若干好転した様に見えるが、まだまだ回復したとは言えない。